

研究だより冬号
平成二十五年度

第三十七回看護研究
発表会開催



座長:長町さん

口演発表は四題と感染管理認定看護師の林さんよりシミュレーション教育の取り組みについて報告がありました。
三病棟の武富さんは難治性の褥瘡でも統一した手順を実施することで改善することを実施したケアや褥瘡の経過を表にまとめわかりやすく説明していました。発表は練習した通りにできたそうです。



3病棟の田中さんが香川県看護学会で発表しました



発行:香川県立白鳥病院看護研究委員会



編集者より
ひとこと

発表者の方たちは忙しい業務の中、お疲れ様でした。委員会では来年度の研究者を募集しています。委員まで声をかけてください!

川本さんはリハビリカンファレンスが情報共有の場としての役割が果たせていることや今後は事前準備や今後の方針を記録することが大切であると発表していました。
発表準備は睡眠不足の中頑張ったそうです。



一病棟の筒井さんは大腿骨頸部骨折におけるせん妄患者の実態調査を発表しました。発表後に質問がたくさんありびっくりしたそうです。



永井さんは誤嚥性肺炎予防ケアの標準化に向けた教育的介入の示唆を得るため看護師の自律性と基本属性を調査していました。アンケートをもう一度実施して論文修正後に院外発表に向けてこれからも取り組むそうです。
忙しいけど頑張ってください



林さんは今回の院内発表にむけて実施した内容をまとめて報告することができたのでよかったです。



第45回(平成26年度)日本看護協会
発表してみませんか?

参加希望のある方は研究委員まで声をかけてください



発表は
緊張しました

看護研究だより

秋号 第44回日本看護学会
学術集会に参加して

平成28年度

日本看護学会―看護管理

医療大学との共同研究となつて

今回は、医療大学の先生との共同研究になったので、最後まで遠慮せずに相談したり、論文作成の協力も、お願いできました。共同研究になってよかったと実感しました。

会場の発表者用の机は、狭い机でした。細い腕でも乗せるのに躊躇する程でした。質問はなく、座長から1つあっただけでした。コンピテンシーという組織論に興味をもっている施設が、まだ少ないのかなと思いました。

3病棟副看護師長 矢井さん



日本看護学会―看護教育

沢山の質問がありました

埼玉まで一人で行ってききました。

発表までの準備が大変でしたが、会場では、沢山の方に興味を示してもらって、多くのいろいろな質問があって、楽しかったです。緊張したけど、貴重な経験をさせてもらいました。他の施設のプレゼンや研究内容も見せてもらって、いい勉強になりました。

1病棟税所さん



日本看護学会―看護総合

若者よ、学会に行こう！そして発表しよう！

ポスター発表だったため発表前に資料（バンドル）を配布したら、多くの人が足をとめ見てくれました。資料は、予想以上に人寄せ効果がありました。中小規模病院という表現が分かり難かったようなので、施設の概要を初めに入れればよかったと反省しました。

口腔ケア関連の研究は、20題近くありましたが、病院全体で取り組んでいる研究は他にありませんでした。全体で取り組むのは大変だけど意義のあることだと思いました。皆も、もっとどんどん学会発表に出したらいいと思います。失敗してもやればやるだけの得るものはあります！だから、みんな研究をした方がよい。学会では、若い人が多く発表参加していました。学会にもっと行きましょう！観光も兼ねて行くのもいいかもしれませんね。



2病棟 永井さん・看護部 林さん

委員会後記

学会準備は、大変だった方もいたようですが、学会で発表することによって新しい学びもあったとの感想をいただきました。今後も学会発表の体験者が増え、白鳥病院の看護力の評価に繋がればーと思っています。



お知らせ

香川県看護学会

3病棟の田中さんの

発表は冬号に掲載します。

会場では、当院の参加者が研究者に質問するなど、楽しそうでした。研究の進め方や、まとめ方など、とても参考になったとの感想がありました。

白鳥病院看護研究委員会
発行



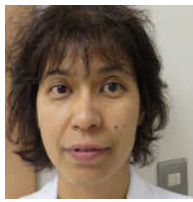


川本 美有紀さん

リハビリの川本さんに、今年度の研究への参加を依頼して、快諾していただきました。川本さんの説明力は院長先生も絶賛したことがあります。リハビリの方の発表は、分かり易く伝えるという意味からも効果的なプレゼンテーションをされ、とても参考になります。発表会にはぜひ参加して、あなたのプレゼンのスキルをアップさせてください。



林 珠美さん



永井 信子さん

林さん・永井さんは、感染予防策の取り組みの成果を研究として院外でも発表し続け、今回で三回目です。この秋も大分県での全国学会の発表をひかえており、間無く院内での発表の準備が待っています。忙しい業務の中、果敢にチャレンジしている彼女たち、また看護の質向上のために協力している看護スタッフの姿勢にも誇りを感じます。



武富 涼さん

医療大学で二回指導を受け、実施した看護介入の理由と根拠を明確にすることや、データの収集・表示方法など、具体的に教えてもらったそうです。テーマは「難治性褥瘡のある患者に対する関わり」です。



筒井 怜奈さん

医療大学まで指導を受けに行きました。データの収集・分析方法や、倫理面・今後の予定など具体的に打ち合わせをしたそうです。テーマは「大腿骨頸部骨折で入院した整形患者におけるせん妄発症要因の実態」です。

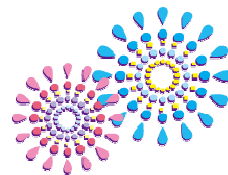
第42回日本看護協会学会：看護管理で発表した研究論文がきっかけで、人材教育雑誌「日総研」に掲載されました。

お知らせ

第44回日本看護学会での発表予定
 看護管理：9/19・20：矢井さん
 看護教育：10/9・10：税所さん
 看護総合：9/13・14：永井さん

詳しくは秋号で...

香川県看護学会：田中さんの発表は冬号で



発行：香川県立白鳥病院看護研究委員会

「話を聴く」から「語り合う」=看護を振り返る
**受講者の認識と看護実践が変わる
 ナラティブ発表会の実際**

「看護を語る」ナラティブ発表会の取り組み

香川県立白鳥病院
 看護部長 三原由紀美
 看護部長 細川信子
 副主幹 大塚京子

ナラティブ発表会導入の経緯

香川県は、3つの国立病院と1つの総合センターの事業運営を行っている。看護師の教育・育成については、県立病院全体で行っており、2004年よりリカレントラー（以下、ラゼン）を導入し（表1）、看護者の能力向上に資する人材育成を行ってきた。ラゼンは認定制で、認定科目の選択の一つに事例レポートがあり、ナラティブレポートの提出を条件にしている。

教育・研修でイノベーション！
看護人材教育
 2013年6・7月号

中堅・ベテラン看護師のキャリアを活かす教育支援

教員・実習指導者の質向上に効果をもたせた授業と実習評価

病院概要 12012年4月現在
 1953年8月 香川県立白鳥病院として発足
 2010年5月 新築建替え、開院
 ●病床数：150床
 ●診療科：内科、呼吸器内科、消化器内科、

基本理念 地域の中心病院として常に良質な医療を提供することと基本理念に、地域住民の健康・福祉の向上に資すると共に、地域住民に一層信頼される病院となるように努めます。

2013年度教育目標
 1 適切な看護を提供するためのアセスメント能力や看護診断能力を高めようとする。